

Ⅱ 施設種別ごとの再編計画（イメージ）

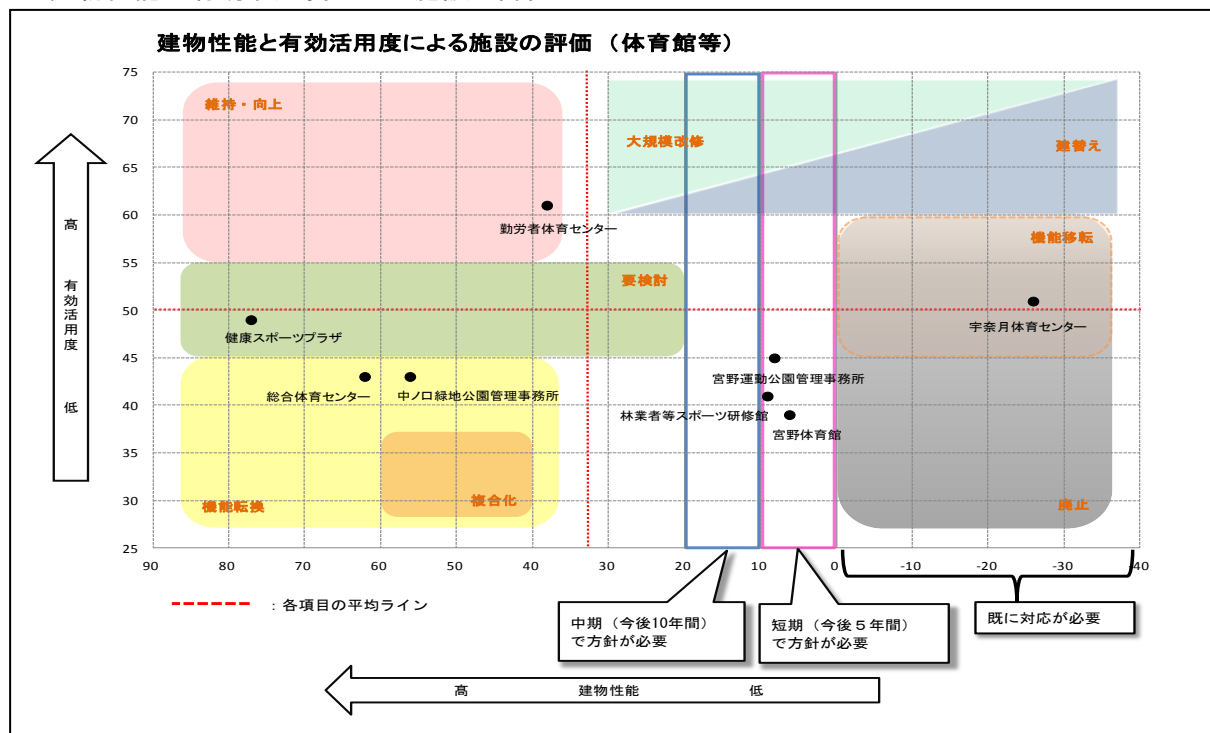
8. 体育館等

□ 施設の概要

施設名	建物性能		有効活用度					
	① 老朽化率 (%)	② 耐震化への対応	利用状況			コスト状況		
			③ 年間利用者数 1㎡当たり (人)	④ 年間利用日数 (稼働率) (%)	⑤ 年間利用者数の 推移 (増減率) (%)	⑥ コスト 1㎡当たり (円)	⑦ 更新コスト (百万円)	⑧ 利用者一人当たり コスト (円)
総合体育センター	38.3	／	23	100	▲0	12,771	4,513	548
宇奈月体育センター	105.9	△	10	100	15	3,768	438	372
健康スポーツプラザ	23.4	／	10	100	6	3,766	500	379
宮野体育館	74.5	△	8	79	▲27	4,372	841	323
林業者等スポーツ研修館	90.9	／	3	50	▲15	822	507	284
勤労者体育センター	61.7	／	24	100	5	733	562	30
宮野運動公園管理事務所	72.0	△	11	50	±0	4,372	254	323
中ノ口緑地公園管理事務所	44.0	／	0	50	▲100	4,372	114	323

※ 網掛けは、データ不明のため施設種別や施設全体での平均ランク等とした部分。

□ 建物性能と有効活用度による施設の評価



□ 再編の方向性

施設名		施設ごとの方向性		
		短期 (H28～H32)	中期 (H28～H37)	長期 (H28～H67)
総合体育センター	建物	—	—	維持（長寿命化）
	機能	機能転換・複合化	機能転換・複合化	機能転換・複合化
宇奈月体育センター	建物	解体		
	機能	機能移転		
健康スポーツプラザ	建物	—	—	維持（長寿命化）
	機能	要検討	要検討	要検討
宮野体育館	建物	解体		
	機能	廃止		
林業者等スポーツ研修館	建物	解体		
	機能	廃止		
勤労者体育センター	建物	—	—	大規模改修・建替え
	機能	維持	維持	維持
宮野運動公園管理事務所	建物	解体		
	機能	機能移転		
中ノ口緑地公園管理事務所	建物	—	—	解体
	機能	機能移転・複合化	機能移転・複合化	廃止

□ 該当する利用圏域別区分による再編方針

利用圏域	①広域施設 利用が市内にとどまらないもの	②市域施設 全市的な利用を図るもの	③地域施設 合併以前の旧市町の利用にとどまるもの	④生活圏域施設 小学校区単位で利用を図るもの	⑤町内圏域施設 町内会単位で利用を図るもの
再編方針	それぞれの用途に応じて市域に1つの設置を基本とする。	それぞれの用途における業務・活動拠点の中心として位置づけられる施設については、用途ごとに市域に1～2つ程度の設置を基本に、③地域施設との統廃合や複合化、機能集約について検討する。	利用が少ない施設については、用途にかかわらず②市域施設への統廃合や複合化、機能集約、④生活圏域施設としての用途転換等について検討する。	用途ごとに施設の適正な配置を考慮し、統廃合や複合化、用途転換等による機能重複の解消について検討する。	公共施設としての必要性を明確にする中で、地元への譲渡を検討する。
体育館等					

□ 体育館等の再編方針

短期 (H28～H32 対応分)

- 宇奈月体育センターの利用圏域は、宇奈月地域が大半の地域施設となっており、広域的な利用が少なく、再編の方向性も「解体・機能移転」のため、当面現状のまま維持（更新はしない）し、大規模改修等の必要性が見込まれる時点で、解体します。現在の機能で存続すべきものを抽出し、代替施設として総合体育センター、学校や他の施設にある多目的ホール等の活用を図ります。
- 宮野体育館は、再編の方向性は「解体・廃止」ですが、サービスの効果・利益の一部が社会全体に及ぶことから、当面現状のまま維持（更新はしない）し、大規模改修等の必要性が見込まれる時点で、機能を廃止し、解体します。
- 宮野運動公園管理事務所は、再編の方向性は「解体・機能移転」ですが、管理事務所という機能に鑑み、当面現状のまま維持（更新はしない）し、劣化度調査を踏まえ、中期以降の検討に位置づけます。
- 林業者等スポーツ研修館は、木造のため、老朽化率の算定において他の構造の建物と比べて老朽化率が高く、再編の方向性は「解体・廃止」ですが、耐震基準に適合し、実際の建物性能は高いと考えられることから、劣化度調査や他の施設の再編を踏まえ、中期以降の検討に位置づけます。

中期 (H28～H37 対応分)

該当なし

長期 (H28～H67 対応分)

- 勤労者体育センターは、地元自治振興会単位での利用が大半の生活圏域施設であり、市域での均衡を図るため、老朽化した時点で更新せず解体し、市域施設を代替施設とします。
- 中ノ口緑地公園管理事務所は、設置意義が薄れているため、現状のまま維持（更新はしない）する中で、市有財産としての有効活用方法を検討します。
- 総合体育センターは、本市スポーツ施設の拠点に位置づけ、同種または類似機能の集約化を進めます。中長期保全計画を策定し、建物の長寿命化を図ります。
- 健康スポーツプラザは、一般的な体育館とは異なる機能性を有することから、重複している機能の集約化を進めます。中長期保全計画を策定し、建物の長寿命化を図ります。